

# 今月の

# 逸品

NO.25 2017.04



## 足踏み式オルガン

日本楽器製造（現：YAMAHA）1909（明治42）年  
1430mm×740mm×1190mm

京都学芸大学が京都師範学校から引き継いだ 20 台のオルガンのうちのひとつ。日本楽器製造（現在のヤマハ）が製造した「足踏み式オルガン第 19 号」という型式のリードオルガンで、製造番号より 1909(明治42)年2月から3月につくられたことがわかる。61 鍵の鍵盤に、音色をかえるためのストップ（音詮）が 13 個つき、内部には高音部と低音部とに各 4 列の笛が存在する。ペダル操作で減圧された袋が、リードを震わせながら空気を吸い込むことによって音が鳴る仕組みだが、この空気袋が大きく設計されているため、ペダル操作には力が必要で、空気を効率よく取り込める反面、細かなコントロールが難しい。また、細かな音のニュアンスの表現には、空気袋の状況を足の裏で感じとらなければならず、奏者に高い技量が求められる。販売時の広告によると定価は 350 円だったようで、米価をもとにこれを換算すれば、現在の約 140 万円と試算される。当時の授業料が年額 22 円だったことに照らしても、かなり高価なものだったことが推測できよう。



明治 45 年当時の広告



リードオルガンの内部  
(解体修理作業時に撮影)